



東広会ニュース

11月号

2006年(平成18年)

Vol.29

発行所 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5
JR恵比寿ビル14F

東日本鉄道東京広告会

電話 03(5447)7928

E-MAIL info@tokokai.jp

平成18年度下期インセンティブ報奨「重点商品」一覧

重点商品			
駅ポスター	セット商品	セレクト15、山手ホーム、首都圏B、ターミナル	5P
		東京京葉線、首都圏A、東日本広域	3P
		渋谷ハーフジャック、原宿ハーフジャック	1P
	SuiPo パノラマ新宿		5P
サインボード	再販媒体(返還媒体数を差し引いた購入回数。ただし売上が減少する場合は対象外とします。)		10P
	セットボード	山手(第一・第二)	5P
		中央	
		埼京、湘南、総武	
駅メディア	自動改札ステッカー	全エリアセット	20P
		八王子、大宮、千葉エリア	3P
		高崎、水戸エリア	1P
	新宿東口ステーションボード		5P
	フラッグ	新宿駅	5P
		恵比寿駅	3P
	アドビラー	東京駅(京葉八重洲通路)	3P
		新橋駅、池袋駅(中央通路)、渋谷駅	1P
	集中貼り	池袋駅	3P
		上野駅	
		大宮駅	
車両メディア	SuiPo mini(ポスタータイプ・モニタータイプ)※日数を問わず、1回の利用につき1台1P		1P
	3線群中づり(土日・多日枠)	3線群セット	5P
		単線群	1P
	3線群中づり(金土日枠)	3線群セット	4P
		単線群	1P
	3線群まど上(金・土掲出開始枠)	3線群セット	3P
		単線群	1P
	東海道線、宇都宮・高崎線、常磐線中づり(短期)	東海道/宇都宮・高崎/常磐線セット	3P
		単線	1P
	東海道線、宇都宮・高崎線、常磐線中づり(長期)	東海道/宇都宮・高崎/常磐線セット	4P
		単線	1P
	グリーン車額面(東海道、宇都宮・高崎、横須賀・総武快速線)		3P
	山手線アドストラップ	11編成以上	5P
		6～10編成	3P
		1～5編成	2P
	ADトレイン	ADトレイン(山手線・中央線・京浜東北線は除く)	2P
		ADトレイン(中央線・京浜東北線)	1P
	新幹線	新幹線セット	2P
		車内LED広告 全線セット	1P
	B3車内額面		1P

このインセンティブ報奨は、JR東日本の交通媒体の販売に大きく貢献した広告会社を対象に、上期・下期の年2回行われているもので、「対前年度売上超過額」「重点商品販売」「売上高順位」の3つを算定基準として報奨額が決められる。

18年度下期についても、上期同様の幅広い内容でインセンティブ報奨の幅広い内容でインセンティブ報奨が行われる。

が行われ、より多くの広告会社が受賞されることをJ企では期待している。

○受賞広告会社(五十音順)

(株)アド・スマイル (株)ウオータックインターナショナル (株)NKB (株)オリコム (株)皆成 (株)キョウエイアド・インターナショナル 協立広告(株)

J企による平成18年度上期インセンティブ報奨受賞の広告会社は、このほど決まり、11月21日(火)ホテルメトロポリタンエドモンドで報奨授賞式が行われる。今回の受賞広告会社は43社(別項)で、昨年度上期に受賞した35社より8社増となった。下期についても、さらなるJR交通広告の拡大に向け、同様の内容でインセンティブ報奨が行われる。

平成18年度上期インセンティブ報奨・43社の受賞決まる

(株)共和企画 (株)近宣 (株)ケイエムアドシステム (株)京王エージェンシー (株)京急アドエントラプライズ (株)弘垂社 (株)廣栄社 (株)交宣 (株)さくらぎ (株)サンエイ企画 (株)ジェイ・アイ・シー (株)ジェイ・アドクルー (株)ジェイ・アイール (株)日本コミュニケーションズ (株)春光社 (株)相鉄エージェンシー 第一広告宣伝(株) (株)大晃 大日本印刷(株) (株)電通 (株)東急エージェンシー (株)東急スペース開発 (株)TOMOE 長田廣告(株) (株)日交 (株)日興社 (株)日本スタデオ (株)ニューアド社 (株)博報堂DYMメディア (株)パートナーズ 表示灯(株) (株)文宣 (株)メトロコマース (株)ムサシノ広告社 (株)友広社 (株)ユーシン広告社 (株)横浜エヌケービー (株)リード

海外広告研修を実施

東広会として初めての海外広告研修(上海)が11月2日(木)から4日(土)実施された。大村義親団長を含めた33名が2泊3日の短い日程の中、精力的に、現地での研修を行った。その内容については、参加したJ企交媒局媒体開発部長山本孝氏のレポート(下記)をご参照いただきたい。

参加したメンバーからは「とても有意義な研修だった。今後も継続して実施してほしい。」との声が上がっていた。



Focus Media CEO 江南春氏の講演の席上で活発な質疑応答を行う東広会海外研修参加者メンバー

上海の屋外広告・交通広告の現況

「東広会「上海広告研修」に参加して」

はじめに

さる11月2日(木)から4日(土)にかけて、2泊3日の行程で東日本鉄道東京広告会の主催による「上海広告研修」が実施されました。これは2008年の北京オリンピック開催を控えて、近年、発展の著しい中国の中でも、特に金融・貿易・物流の中心地として国際企業が多数進出している上海において、屋外広告・交通広告の現状を視察するもので、「東広会」としては初の海外研修となります。ツアーには33名の会員が参加し、「上海西南广告有限公司」社長等、現地関係者と活発な意見交換が行われました。

極めて限られた時間の中での視察ではありましたが、以下に上海における屋外広告・交通広告についての雑感をまとめてみました。

■屋外広告について

○大型屋外ボードによるダイナミックな展開

上海の屋外広告には日本における「屋外広告条例」のような細部にわたる規制が存在しない。しかし近年、都市再開発計画に伴い、政府により街の景観向上のために、媒体の規制や撤去が行われつつあると言ふ。特にロードサイド



ビル屋上ボードと壁面広告



橋脚上部の広告(公共設備にも広告展開可)



高層ビルの壁面ラッピング



空港から市内へのリムジンバス

の大型ボードやビルラッピングを含む壁面ボードは大型のものが多く、運転者・歩行者の目を惹く意匠となっている。但し広告主はほとんどが外国企業であり、国内企業の広告はあまり多くない。

○ラッピングバスとバス停サイン

路線バスは市内を網の目のように路線が走り、自転車とともに上海市民の重要な交通手段となっているが、車体はそのほとんどが広告シートでラッピングされており、クライアントも多岐にわたっている。合わせてバス停にも大型ボードが道路に向けて設置され、自動車の運転者・バスの乗客に向けて訴求している。このバス停ボードは大型の上下スクロール式内照シートのもものが主流であったが、一部にLEDビジョンを活用したものが見受けられた。

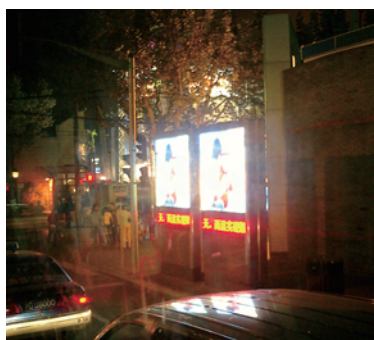


路線バス(運賃は初乗り15円程度)

○スクロール式内照ボード

(ロードサイドで面展開)

前述のバス停にも設置されている縦長のスクロール式内照ボードは、市内の繁華街や道路脇等、随所に展開されていた。エリア毎に意匠は同一であり、セット販売されているも



道路脇のLEDビジョンで動画放映(下部に文字情報)



バス停の広告ボード(シートが上下にスクロールする内照式)



▶夜間のバス停(上部は大型壁面サインボード)



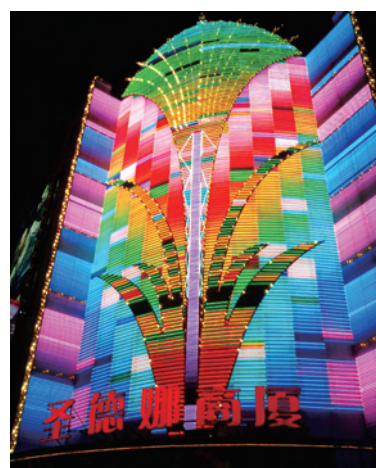
壁面ネオンサイン(南京路にて)

○圧倒的に大型のネオンサイン
特に商業地域における電飾サインは極めて大規模である。ネオンサインが主流だが、LEDを活用したものも少なくない。なお余談になるが中国の電力消費量は石炭火力中心で日本のほぼ6倍以上であり、まだまだ電力需要をまかないきれないとのこと。今後、省エネルギーの視点で見直される時も来るかも知れない。



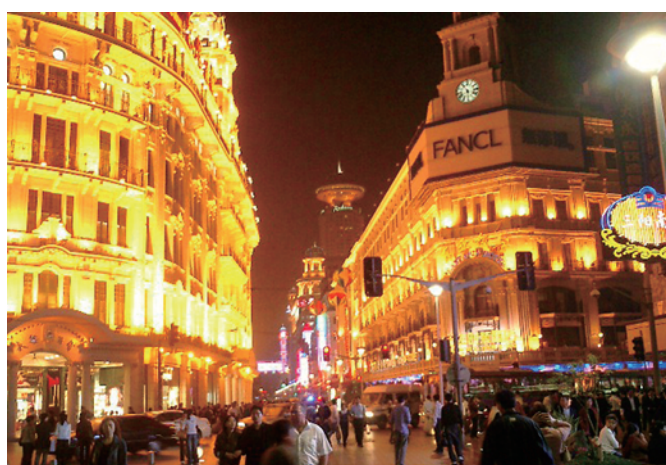
南京路歩行者天国にて

のと思われる。また写真のように上部にLEDの文字情報を組み合わせたり、LEDビジョンを埋め込んだりしているものも多かった。



▶商業施設のライトアップ(南京路にて)

◀壁面ネオンサイン(南京路にて)



○映像メディアの展開

(コンテンツはCMのみ)

上海では屋外の随所に映像メディアが見られる。その多くはLEDビジョンであり、数種類のCM(日本製家電が多い)を繰り返し放映している。なお上海で、マンション・ホテルのエレベーターやスーパーマーケット内に14インチ程度の液晶モニターを設置・管理し、広告ビジネスを展開、ここ数年で急成長している「フォーカスメディア」社によれば、同社の管理する映像媒体は、マンションエレベーターで13万台、スーパー7千店、屋外LEDは100面に及ぶという。



301㎡の大型LEDビジョン(曲面タイプ/徐家匯周辺)



南京路世紀広場の大型LEDビジョン(左右2面)

映像による商品訴求は既存の媒体以上に消費者にインパクトを与え、ブランド告知・新商品の告知のために映像による広告を希望するクライアントは多く、空き枠待ちの広告主が多いとのこと。但し映像の配信には政府の規制もあり、インターネットが使用できず、メモリーカード差し替えによるスタンドアロン放映となっている。このような「人海戦術」は人件費の安い中国ならではのビジネスモデルと言える。

交通広告について

上海における交通広告は前述した屋外広告ほど、需要が大きいように思われる。これは日常的な移動の「足」として鉄道を利用する市民がそれほど多くないことによるのかも知れない。特に駅構内は媒体数も多くないため、すっきりとした印象を受けた。

○地下鉄構内広告(サインボードが主流)

地下鉄の構内広告は電照式サインボードが主流である。サイズも統一



商業施設EV内のモニター



ビル壁面に埋め込みのLEDビジョン(徐家匯周辺)



自動改札はICカードによるタッチ式(初乗り30円程度)

上海南駅
(ホームモニター・背面は内照式サインボード)

がとれており、面数も少ないため、整然とした印象を受ける。広告主は地元のものも多い。また駅ポスターにあたる紙メディアが全く見当たらないのが印象に残った。

また車体広告も盛んであり、ホーム上には吊り下げ型の映像モニターが設置されている。

○地下鉄車内

日本の地下鉄より車内の天井が低く、乗車率が高い。そのために中づりは無く、まど上とドア脇・ドアガラスが主流。中でも一部ドア脇についているモニターが映像を放映して



車体広告



改札内アドピラー

○上海南駅（長距離鉄道の玄関口としてのスケールとグレート感）
今年7月に新駅舎が開業したばかりの上海南駅を視察した。この駅は上海の南側からの玄関口にあたり、主に長距離の旅客に利用されている。



▲車内窓上広告

▶液晶モニター
(壁面に後付け)▲アドストラップ
(意匠を挟み込むタイプ)

いるのが印象に残った。中づりが無い分、アドストラップは日本よりも大型が目立っていた。

○空港における広告展開（大型スクロールボードを複数面設置）
空港内では旅行者の動線に沿って大型のスクロールボードと内照ボー

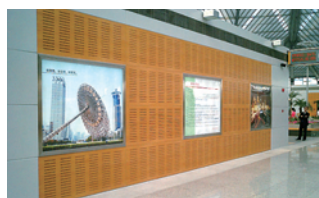
将来的には北京と上海を結ぶ高速鉄道も開業予定とのこと。ドーム型採光式の天井と広々とした待ち合いスペースが印象的である。構内の広告展開は大型サインボードが主流で、今後はバナー・フラッグ等のSP展開も計画されているとのことであった。なお待ち合いスペースの各所に設置されている大型モニターは広告用途ではなく、鉄道会社のPR映像を放映していた。



大型ドーム下部の待ち合いロビー



待ち合いロビー（ホーム毎にエリアが分かれている）



通路に面した内照サインボード（面数は少ない）

待ち合いロビーに複数面
設置された液晶モニター(50吋程度)

大型スクロールボード(浦東国際空港)



大型内照ボード(浦東国際空港)

ドが設置されている。特にスクロールボードは大型のシートが複数面一斉に動くため、注目率が高い。意匠もファッションブランド等、洗練されたものであった。

■まとめ

中国がいわゆる開放政策による「高度成長期」に突入して久しく、特に上海に代表される都市部の生活水準は、外資系企業の参入により、年々急激に向上しており、市民の商品購買力も高まっています。上海の広告はそれらいわゆる「ホワイトカラー」層を対象にしたものが多いように思われましたが、中でも携帯電話・コンピューターに代表される情報家電、大型テレビ・ビデオカメラ等のAV機器、自動車等耐久消費財の広告は街中に氾濫しているように見えます。

圧倒的に大量の広告を生活動線に沿って反復して露出する手法により、商品ブランドを訴求し、消費者の選択に効果的に結びつけていることが印象的です。

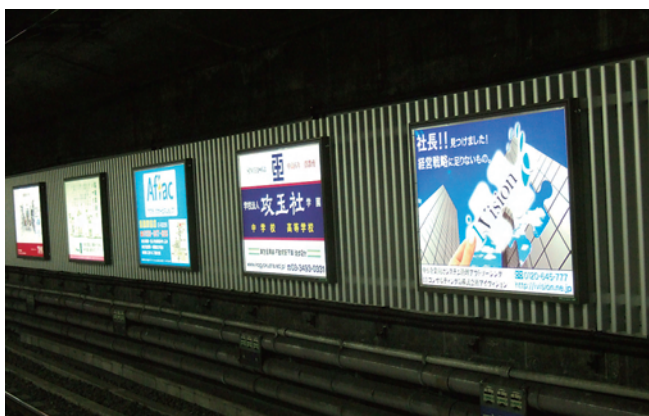
そして「街」とそれを取りまく「広告」に感じられる圧倒的な活力と熱気は日本には見られないものであり、制度も国民性も異なる環境ではあるが、今後の広告展開を考える上で非常に参考になりました。



過去最大級で展開されている『K-SWISS「LOZAN」シリーズ』車体広告

車体広告で山手線をジャック!!
過去最大規模 1広告主12編成で実施

山手線で過去最大規模となる1広告主で12編成の車体広告が展開される。クライアントは「K-SWISS international ltd.」。広告内容はK-SWISS「LOZAN」シリーズ。11月19日(日)から12月24日(日)まで(11月20日(月)時点で12編成の展開となる)。広告デザインは4種類。K-SWISSは今春の山手線車体広告8編成実施に引き続いたの展開となる。



媒体環境の整備がすすむ目黒駅

目黒駅サインボード新規開発追加販売

J企ではサインボードの「媒体モジュール化等の媒体環境整備」を積極的に推進しているおり、目黒駅では、外回り線側埼京線線路側)整備、内回り線側開発が行われた。11月6日に、内回り線側追加販売概要が発表された。

初回契約期間は1年間、契約期間中の内容変更は原則としてできない。申込締切は12月1日(金)、申込決定後、媒体設置となる。お問い合わせはサインボード部または交通媒体システムに掲載されている情報を御覧いただきたい。

年末年始の意匠交換に関わる作業規制

多客輸送期間中等の列車運転の確保及び安定輸送を図るため、作業等調整期間が設定され、「期間中の広告に関する作業等」については、原則として工程の繰上げ、繰り下げを行い、調整期間中には作業をおこなわないこととなる。

年末年始期間

12月28日(木)22時～1月4日(木)22時

平成18年度第3回
登録23社事故防止会議開催される

線路近接作業等を行う23社を対象にした「登録23社事故防止会議」が10月25日(水)14時から東京・池袋の(株)東京メディア・サービス本社会議室で行われた。会議には、登録23社28名、JR東京支社・横浜支社・八王子支社・大宮支社事業部担当者、J企支店媒体部からの出席も含め43名が参加した。

会議では、平成18年度上期意匠交換作業・安全パトロール結果、作業に関するクレームを含めた報告があり、さらに各種事故事例に基づいての注意喚起が、東京メディア安全指導課からなされ、日頃、線路内で作業を受け持つ23社の社員は、安全への強い認識をより深めていた。さらに事故防止のための「工事従事者情報システム(LI-NGS)」についての解説も行われ、質問などを含め熱心な討議が行われた。

会員名簿変更

・加入

日本サイン(株) (11月1日付)

代表取締役 北山登至宗氏

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-10-3

太田紙興新宿ビル7F

電話 03-5366-2331

FAX 03-5366-2332

・住所変更

大日本印刷(株)C&I事業部

(7月20日付)

〒141-8001

東京都品川区西五反田3-5-20

電話 03-6431-5357

FAX 03-6431-5292

電通ヤング・アンド・ルビカム(株)

(11月6日付)

〒105-8613

東京都港区東新橋2-14-1

コモディオ汐留

電話 03-5404-9269

FAX 03-5404-9507

賀詞交歓会のお知らせ

日時 平成19年1月9日(火) 18時から
場所 ホテルメトロポリタンエドモント
(飯田橋)